

「日々の理科」(第1735号) 2019 (H31), -4, -9

「桜満開! (6)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

小石川植物園の正門をくぐると、ゆるやかだが長い坂道が入園者を誘う。この坂道も、「小石川低地」から「武蔵野台地(白山舌状台地)」へ上る段丘崖に位置している。小石川植物園の北半分は、武蔵野台地の東の縁に位置しているのだ。



この坂から見たサクラもまた見事である。入園者は坂の途中で足を止めて、サクラに見入ったり、撮影を楽しんでいた。



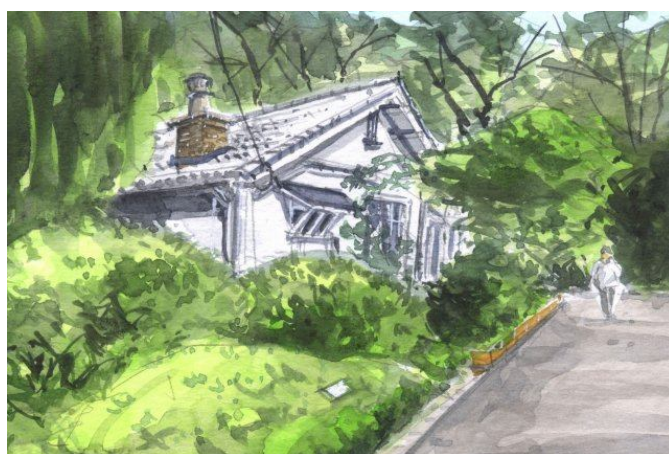
しかし、何と言ってもこの植物園のメインは、この台地上にあるサクラ園だろう。ここは植物園の実験林の一つなので、過度な剪定はせず、サクラの木が自然に成長するに任せている。サクラの木本来の自然な樹容が見られるのがすばらしい。どの枝も、手に届く位置まで垂れさがり、入園者は満開の桜に触れることができる。スマホの絶好の被写体にもなっている。しかし手折って持ち帰るような不埒な者は一人もいない。



リフォーム工事が終わって、再び公開している「柴田記念館」にも寄ってみた。私も入会している「小石川植物園後援会」の事務局もこの中にある。



内部のレトロな窓枠も美しい。こういう家屋の設計図を手に入れて、いつか建ててみたい気がする。



私は植物に囲まれた、この古風な建物のたたずまいが好きで、たびたび画に描いている。この絵は、初夏に描いたもので、緑で一杯である。先日土曜に行った時は背後にサクラが咲いていて、また描きたくなった。